

第155回定時株主総会 招集ご通知に際してのインターネット開示事項

〔事業報告〕

1. シオノギグループの現況に関する事項
 - (1) 財産及び損益の状況の推移
 - (2) 企業集団の主要な事業セグメント
 - (3) 企業集団の主要な事業所
 - (4) 企業集団の使用人の状況
 - (5) 主要な借入先の状況
2. 会社の新株予約権等に関する事項
3. 会計監査人の状況
4. 会社の体制及び方針

〔連結計算書類〕

連結株主資本等変動計算書
連結注記表

〔計算書類〕

株主資本等変動計算書
個別注記表

塩野義製薬株式会社

上記事項は法令及び当社定款第14条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト

(<http://www.shionogi.co.jp/ir/finance/meeting.html>) に掲載することにより、株主の皆さまに提供いたしております。

〔事業報告〕

1. シオノギグループの現況に関する事項

(1) 財産及び損益の状況の推移

① 企業集団の財産及び損益の状況の推移

区 分	2015年度 第151期	2016年度 第152期	2017年度 第153期	2018年度 第154期	2019年度 第155期 (当期)
売 上 高	百万円 309,973	百万円 338,890	百万円 344,667	百万円 363,721	百万円 334,958
営 業 利 益	百万円 91,406	百万円 108,178	百万円 115,219	百万円 138,537	百万円 125,231
経 常 利 益	百万円 100,869	百万円 123,031	百万円 138,692	百万円 166,575	百万円 151,751
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	百万円 66,687	百万円 83,879	百万円 108,866	百万円 132,759	百万円 121,295
研 究 開 発 費	百万円 49,787	百万円 59,907	百万円 59,945	百万円 68,325	百万円 47,193
総 資 産	百万円 631,599	百万円 661,499	百万円 711,463	百万円 778,741	百万円 773,650
純 資 産	百万円 513,877	百万円 526,211	百万円 604,840	百万円 672,429	百万円 683,647
1株当たり当期純利益	円 銭 204.83	円 銭 259.88	円 銭 342.71	円 銭 424.31	円 銭 392.80
1株当たり純資産額	円 銭 1,564.73	円 銭 1,638.46	円 銭 1,911.36	円 銭 2,144.33	円 銭 2,248.69
1株当たり配当金	円 銭 62.00	円 銭 72.00	円 銭 82.00	円 銭 94.00	円 銭 103.00(注1)
自己資本当期純利益率 (ROE)	% 13.6	% 16.3	% 19.4	% 20.9	% 18.0
株主資本配当率 (DOE)	% 4.1	% 4.5	% 4.6	% 4.6	% 4.7(注1)

- (注)1. 当期の1株当たり配当金及び株主資本配当率は、第155回定時株主総会において、第1号議案が原案どおり承認可決された場合の金額及び数値を記載しております。
2. 2018年度より「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しております。このため、2015年度から2017年度については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しております。

② 当社の財産及び損益の状況の推移

区 分	2015年度 第151期	2016年度 第152期	2017年度 第153期	2018年度 第154期	2019年度 第155期 (当期)
売 上 高	百万円 283,428	百万円 305,256	百万円 315,941	百万円 327,991	百万円 293,865
営 業 利 益	百万円 102,212	百万円 108,513	百万円 116,907	百万円 138,366	百万円 116,107
経 常 利 益	百万円 103,642	百万円 108,113	百万円 117,534	百万円 139,836	百万円 121,265
当 期 純 利 益	百万円 74,975	百万円 28,767	百万円 89,135	百万円 100,037	百万円 88,640
総 資 産	百万円 589,765	百万円 559,714	百万円 584,964	百万円 612,336	百万円 580,804
純 資 産	百万円 485,167	百万円 451,572	百万円 500,510	百万円 533,261	百万円 530,482
1株当たり当期純利益	円 銭 230.28	円 銭 89.13	円 銭 280.60	円 銭 319.73	円 銭 287.05
1株当たり純資産額	円 銭 1,489.09	円 銭 1,415.22	円 銭 1,590.50	円 銭 1,711.39	円 銭 1,744.81

(注) 2018年度より「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しております。このため、2015年度から2017年度については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しております。

(2) 企業集団の主要な事業セグメント

医薬品の製造、販売を主要な事業としております。

(3) 企業集団の主要な事業所

		名 称	所 在 地
国 内	本店・支店	本店	大阪府大阪市
		東京支店	東京都千代田区
	事業所	杭瀬事業所	兵庫県尼崎市
		梅田オフィス	大阪府大阪市
		医薬事業本部オフィス	大阪府大阪市
	研究所	医薬研究センター	大阪府豊中市
	工場(注)2	摂津工場	大阪府摂津市
金ヶ崎工場		岩手県胆沢郡	
徳島工場		徳島県徳島市	
海 外 (注)2		シオノギ I N C .	米国ニュージャージー州
		シオノギ B . V .	オランダ アムステルダム
		台湾塩野義製薬股份有限公司	台湾 台北市
		C & Oファーマシューティカル テクノロジーホールディングス Ltd.	中華人民共和国深セン市

- (注) 1. 上記のほか、全国各主要都市に営業所等を設けております。
2. 子会社における拠点であります。

(4) 企業集団の使用人の状況

① 企業集団の使用人数

使 用 人 数	前 期 末 比 増 減
5,222 名	(減) 11 名

- (注) 使用人数は、グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であり、当社グループからグループ外への出向者、臨時雇用人員を除いております。

② 当社の使用人の状況

使 用 人 数	前 期 末 比 増 減	平 均 年 令	平 均 勤 続 年 数
2,667 名	(減) 929 名	41.3 才	15.9 年

- (注) 使用人数が前期末と比べて929名減少しておりますが、その主な理由は、シオノギファーマ株式会社への転籍によるものであります。

(5) 主要な借入先の状況

該当事項はありません。

2. 会社の新株予約権等に関する事項

① 当事業年度末日における当社役員が保有する職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

名称 (発行日)	発行決議日	新株予約権 の数	目的となる 株式の種類 及び数	新株予約権 1個当たり の発行価格	新株予約権 1個当たり の行使価額	新株予約権の 権利行使期間	取締役の 保有状況 (保有者数)
塩野義製薬株式会社 2011年度新株予約権 (2011年7月11日)	2011年 6月24日	252個	当社普通株式 25,200株	113,000円	100円	2011年7月12日から 2041年7月11日まで	217個 (3名)
塩野義製薬株式会社 2012年度新株予約権 (2012年7月12日)	2012年 6月27日	316個	当社普通株式 31,600株	91,700円	100円	2012年7月13日から 2042年7月12日まで	371個 (3名)
塩野義製薬株式会社 2013年度新株予約権 (2013年7月11日)	2013年 6月26日	172個	当社普通株式 17,200株	193,100円	100円	2013年7月12日から 2043年7月11日まで	201個 (3名)
塩野義製薬株式会社 2014年度新株予約権 (2014年7月10日)	2014年 6月25日	178個	当社普通株式 17,800株	190,000円	100円	2014年7月11日から 2044年7月10日まで	206個 (3名)
塩野義製薬株式会社 2015年度新株予約権 (2015年7月9日)	2015年 6月24日	99個	当社普通株式 9,900株	455,400円	100円	2015年7月10日から 2045年7月9日まで	99個 (3名)
塩野義製薬株式会社 2016年度新株予約権 (2016年7月8日)	2016年 6月23日	85個	当社普通株式 8,500株	525,700円	100円	2016年7月9日から 2046年7月8日まで	85個 (3名)
塩野義製薬株式会社 2017年度新株予約権 (2017年7月7日)	2017年 6月22日	85個	当社普通株式 8,500株	574,200円	100円	2017年7月8日から 2047年7月7日まで	85個 (3名)

- (注) 1. 新株予約権の目的となる株式の数は1個当たり100株であります。
2. 発行価格は、割当日における新株予約権の公正価額と新株予約権の行使時の払込額(1株当たり1円)を合算しております。なお、新株予約権の割り当てを受けた者(以下、「新株予約権者」という。))は、新株予約権の公正価額相当額の払い込みに代えて、当社に対する報酬債権と相殺しております。
3. 新株予約権の行使期間内において、新株予約権者である取締役は、当社取締役の地位を喪失した日の翌日から10日(10日目が休日に当たる場合には翌営業日)を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものといたします。その他の権利行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによるものといたします。
4. 取締役の保有状況のうち、2011年度から2014年度の各新株予約権については、取締役1名が取締役就任前に執行役員の職務執行の対価として付与されたものを含めて記載しております。
5. 当社は新株予約権を社外取締役及び監査役には割り当てておりません。

② 当事業年度中に職務執行の対価として当社使用人等に対し交付した新株予約権の状況

該当事項はありません。

3. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等

106百万円

② 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

106百万円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査報酬と金融商品取引法に基づく監査報酬の額を区分しておらず、また実質的にも区分できないため、①の金額には金融商品取引法に基づく監査報酬を含めた合計額を記載しております。
2. 当該金額について、当社監査役会は、会計監査人から監査計画（方針、項目、チーム体制、予定時間、前期からの変更点等）及び報酬見積の額の説明を受け、前期の計画と実績・報酬額・時間当たり報酬単価等との比較に加え、社内関係部門の見解を確認し検討した結果、報酬等の額は妥当と判断し同意を行っております。

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合には、監査役会は監査役全員の同意により会計監査人を解任する方針です。

また、当社が定めた会計監査人を適切に評価するための基準に照らして、職務遂行の適正性が確保されないと認められる場合には、監査役会の決議により会計監査人の不再任の決定を行う方針です。

(4) 監査役会が会計監査人を不再任としなかった理由

監査役会は、会計監査人から職務の執行状況について報告を受けるとともに、説明を求め、監査役会が定めた「会計監査人の評価基準」に基づき適切なプロセスを経て、厳正に評価を実施し協議いたしました。その結果、再任を相当とする監査役会の決議に至りましたが、引き続き、会計監査人の業務管理体制を監視してまいります。

4. 会社の体制及び方針

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務並びに当該株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制

(1) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針（「内部統制システムの整備・運用に関する基本方針」）に基づく当事業年度における運用状況の概要は、以下のとおりであります。

① 取締役の職務執行に関する事項

当事業年度において取締役会（社外取締役3名を含む6名により構成）は、13回開催され、法令・定款に則り経営判断を要する重要事項に関して適切な意思決定を行うとともに、監査役5名は取締役の職務執行の監督に努めました。

当社は、経営の執行、監督の役割を明確にし、機動的かつ柔軟な業務運営を行うため執行役員制度を導入しており、業務執行に係る重要事項は、定期的（毎週）に開催される取締役、常勤監査役及び業務執行の責任者にて構成される経営会議の審議を踏まえて、取締役会において適法かつ効率的な意思決定を行っております。さらには、業務執行部門及び主要なグループ会社の職務の執行状況を定期的に取締役会に報告させることにより、執行の監督にも努めております。

「コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方」に従い、昨年度に引き続き政策保有株式の状況及び企業年金の運用状況について取締役会への報告を実施しております。

また、財務報告の信頼性を確保するため、計画に基づき内部統制評価を実施し、必要な改善を促しております。

情報の保存・管理については、シオノギグループ情報管理ポリシーの改定を行うとともに情報セキュリティ体制を整備し、電磁的記録を含め、法令・規則等に従い適切に保存・管理しております。

② コンプライアンスに関する事項

当社は、「シオノギグループ コンプライアンスポリシー」に則り、事業活動における法令遵守と倫理的行動を確保するため、代表取締役社長自らが四半期ごとに発信している社長メッセージにおいて企業倫理の重要性について繰り返し言及することにより、当社グループ従業員のコンプライアンスの徹底に努めております。また、コンプライアンス委員会（委員長：代表取締役社長）は、四半期ごとにコンプライアンス上の課題等について協議し、定期的にコンプライアンス教育、ハラスメント教育を行うなど、各業務執行部門におけるコンプライアンスの実践を支援しております。さらには、このコンプライアンス委員会の活動状況

については、取締役会に年2回定期的に報告を行うことにより取締役の監督を強化し、コンプライアンス体制を推進しております。

加えまして、内部統制システムの実効性を検証するため、内部統制部によるモニタリング活動を継続するとともに、内部通報制度としてコンプライアンス相談窓口及び通報窓口をコンプライアンス委員会事務局（総務部）及び顧問弁護士事務所に設置するとともに、ハラスメント相談窓口及び時間外労働相談窓口を会社内並びに労働組合内に設置しており、コンプライアンス違反、ハラスメント及び過重労働の未然防止、早期発見及び再発防止に努めております。

③ リスク管理に関する事項

当社グループにおいて、事業継続計画を含む総合的な危機管理体制の整備、推進を図るため、2019年度は、大規模地震及びパンデミックの発生を想定したBCP（事業継続計画）を大幅に充実させました。2014年に初めて策定したBCPは定期的に更新を行っていましたが、「事業継続部分」のみが独立して計画されており、「事前対策」「初動対応」の各フェーズが含まれていなかったため、関連性が低く、発災時の対応に改善の余地がありました。そこで、それぞれの計画を統合したうえで、各フェーズで実施すべき内容を全組織・各事業所で全面的に見直し、新たなBCPとして再策定いたしました。その策定過程で、組織トップのコミットメントが更に図られるよう、経営層及び組織長をBCP責任者として任命し、改めてシオノギグループBCPの概念・理念のインプットを行い、BCP内容の充実に繋げました。

その結果、2019年度末には世界で新型コロナウイルスの感染が拡大し、シオノギグループでも感染者が発生しましたが、その後の改訂BCPに準じた対応により、会社の業務の面では大きな支障はなく2019年度を終えることができました。一方で、事業継続可能な在宅勤務業務の特定や、在宅勤務に伴うITインフラの整備などの課題が挙がりました。2020年度も新型コロナウイルスによる脅威は継続していますが、引き続き、上記を含む様々な諸課題に取り組み、シオノギグループのレジリエンシー（回復力）を強化してまいります。また、全社リスクマネジメント（Enterprise Risk Management）の観点では、経営戦略本部長を責任者とする経営戦略会議において、全社リスクマネジメントの統括を行ってまいります。

従来から、企業に大きな影響を与える負のリスクの棚卸を定期的に行っていましたが、更にリスクの捉え方・解釈を拡大し、より経営上のリスクも抽出できるよう取り組んでおります。特に、重要な会議体事務局や、執行役員、バリューチェーン上重要な組織長に対して、改めて内在する重要なリスクの棚卸を行いましたので、このリスクに対する適切な対応策を計画・立案し、検証と実行のPDCAを回すことで、より実効性の高いリスク対応を行ってまいります。加えまして、サステナビリティ推進室が中心となり、2015年10月に制定した「シオノギグループ EHS※ポリシー」の具現化に注力しております。「シオノギグループ EHS行動目標」を設定し、地球環境の保護及び汚染の予防、ともに働くすべての人々と地域社会の安全衛生の確保に配慮した事業活動を行うことによって、安心できる職場づくりと豊かな社会の実現に貢献することを目的として、環境・安全衛生に関する全社的な体制を構築しております。合わせて、EHS管理規則を制定し、シオノギグループにおける管理体制を構築しております。

なお、内部監査を担う内部統制部は、社内の様々なリスク管理の状況について、独立した立場で検証・評価を実施しております。

※EHS：Environment, Health and Safety（環境並びに安全衛生）

④ グループ会社管理体制に関する事項

「シオノギグループ会社管理規則」に基づき、当社各部門が各担当業務に応じてグループ会社の業務を指導・監督するほか、当社から取締役・監査役を派遣し、業務執行を監督、監査しております。グループ全体の企業価値の向上を図り、社会的責任を全うするため、グループ会社に当社の基本方針、行動方針を周知徹底するとともに、統括管理する総務部を中心にグループ会社役員への教育を行うなど、適正なグループ会社経営を推進し、内部統制部がグループ各社の業務執行の適正性・有効性を確認しております。

⑤ 監査役の職務執行に関する事項

監査役は取締役会及び経営会議等の重要な会議に出席し、業務執行と管理に関わる情報、内部統制の実効性に関わる情報を適時に入手し、代表取締役及び各部門の責任者等と定期的に会合を持ち意見交換を行うとともに、会計監査人及び内部統制部と緊密に連携する体制を整備しており、監査の実効性を確保しております。

監査役の求めにより、監査役の職務を補助すべき使用人を複数選任し、監査役の指揮命令下において監査役会による会計監査人评价等監査役の職務遂行に必要な事項を補助いたしました。

常勤監査役が主宰する「グループ会社監査連絡会」を定期的を開催し、グループ会社毎のイシュー・リスクに関する意見交換などを通じて、グループ全体の監査状況を確認するとともに、監査の実効性を確保しております。

当事業年度において監査役会は8回開催され、重要な事項については随時「監査役連絡会」を開催するなど、経営の妥当性・効率性、コンプライアンス、リスク管理及び内部統制の実効性に関して幅広く検証し、適宜経営に対して助言や提言がなされました。

(2) 業務の適正を確保するための体制

当社は、「内部統制システムの整備・運用に関する基本方針」に基づく当事業年度における運用状況を踏まえ、2020年4月24日開催の取締役会において、業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針（「内部統制システムの整備・運用に関する基本方針」）を一部改定する決議をいたしました。

改定後の当該基本方針の内容は次のとおりであります。

当社は、役員・従業員が、経営理念であり価値観である「シオノギの基本方針」を共有し、コンプライアンスを遵守して職務を遂行することにより、透明で誠実な経営を推進してまいります。

この職務の遂行の実効性を高めていくことを目的として、以下に示すとおり業務の適正を確保するための体制を整備・運用いたします。

1. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役会は、取締役会規則に則り適切な経営判断に基づいた意思決定を行うとともに業務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。

最良のコーポレート・ガバナンスを実現させるために制定した「コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方」を実践することで、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図る。

取締役は、他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は、直ちに監査役及び取締役会に報告し、その是正を図る。

適正なコーポレート・ガバナンス体制を確立するため社外取締役を導入し、株主をはじめとする社外からの客観的な視点も踏まえた大局的な判断を行う。

社外取締役は、独立役員として当社の果たすべき企業責任を認識し、透明性の高い経営に貢献する。

取締役は、財務報告の信頼性を確保するため、財務報告に係る内部統制の整備・運用を行い、それらの有効性について適切に評価・報告を行う。

監査役は、取締役の職務執行について監査を行い、取締役は監査に協力する。

会社の経営理念として定めた「シオノギの基本方針」「シオノギの行動方針」や役員・従業員の行動のあり方を定めた「シオノギ行動憲章」の徹底を図るとともに、代表取締役が統括するコンプライアンス委員会においては、事業活動における法令遵守と倫理的行動の確保をより高めるための諸施策を策定し推進する。

反社会的勢力に対しては、「シオノギ行動憲章」に基づき、これらに付け入る隙を与えず常に毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報セキュリティ体制を整備し電磁的記録、電子署名等への対応を図るとともに取締役会議事録、経営会議議事録、コンプライアンス委員会議事録、代表取締役を決裁者とする稟議書等は、保存媒体に応じて適切かつ確実に保存・管理することとし、法令・規則等で定められた期限を遵守し、閲覧可能な状態を維持する。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

「シオノギグループ リスクマネジメントポリシー」に則り、事業継続計画を含む総合的な危機管理体制を構築・整備し、その推進を図る。

各組織において、内在するリスク要因を認識し、それぞれのリスクの程度に応じた対応策を講じることにより、リスクの回避、低減措置を図る。特に、経営に影響を及ぼすような重要なリスクに対しては経営会議等でリスク対応について協議し、対応方針に基づいて主管の各組織が、関連部門と協働して必要な対策を実施する。

また、緊急性を要する災害、事故、企業不祥事等のリスクについては、「危機管理規則」を制定し、この規則に基づき「災害対策要綱」「パンデミック対策要綱」「企業不祥事対策要綱」を定め、人命を尊重し地域社会への配慮、貢献、企業価値毀損の抑制を主眼とした危機管理を推進する。

「シオノギグループ EHS※ポリシー」に則り、地球環境の保護及び汚染の予防、ともに働くすべての人々と地域社会の安全衛生の確保に配慮した事業活動を推進し、安心できる職場づくりと豊かな社会の実現に貢献する。

内部統制部（内部監査部門）は、社内の様々なリスク管理について、独立した立場で検証する。

※EHS：Environment, Health and Safety（環境並びに安全衛生）

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社においては、経営の執行、監督の役割を明確にするとともに、機動的かつ柔軟な業務運営を行うため執行役員制度を導入している。職務の執行に関する重要事項については、定期的（毎週）に開催される経営会議において十分に議論し、その審議をふまえて取締役会において意思決定を行う。

取締役会の決議及び経営会議の審議事項は、業務執行を担う関係部門の組織長等に速やかに伝達され、職務権限規則、業務分掌規則に則り、業務執行の手続きを行う。

5. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス委員会を中心とし、「シオノギグループ コンプライアンスポリシー」に則り、事業活動における法令遵守と倫理的行動の確保をより高めるための諸施策を推進する。

コンプライアンス委員会の事務局を総務部に置き、コンプライアンス教育、ハラスメント教育などを行うとともに、各業務執行部門におけるコンプライアンス及びハラスメントなどに対するリスク管理を支援する。

また、内部統制システムの実効性を検証するため、内部統制部による内部監査を充実させ、モニタリングを強化するとともに、内部通報制度並びに相談窓口を十分に活用し、不祥事の未然防止、早期発見及び再発防止に努める。

6. 当社及びグループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
当社及びグループ会社は、グループ全体の企業価値の向上を図り、社会的責任を全うするため、当社の基本方針、行動方針の周知を行う。
取締役は、グループ会社から業務の執行状況について報告を受け、当社の基本方針、行動方針、経営計画等の実現に向け、「シオノギグループ会社管理規則」に基づきグループ会社を適切に管理し、育成する。
グループ各社においては、上記に準拠した事業運営を行うことにより、適正かつ効率的に業務を推進する。
グループ各社の業務執行については、医薬研究本部、医薬事業本部等の事業部門並びに総務部、経理財務部等の管理部門が適正な事業運営の管理・支援を行い、総務部が統括管理部門として全体管理を行う。
また、内部統制部がグループ各社の業務の適正性、有効性を確認するために、適宜調査を行い、さらに、経理財務部及び内部統制部がグループ各社の監査等を行う。
7. 監査役がその職務を補助すべき使用人（補助使用人）を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び補助使用人の取締役からの独立性に関する事項
当該使用人は、監査役が必要性を認め、設置を求めた場合には設置する。
監査役の職務を補助すべき使用人を設置する場合は、取締役からの独立性を確保した体制とする。
監査役の職務を補助すべき使用人に関し、監査役の指揮命令に服する旨を当社の役員及び使用人に周知徹底する。
8. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
監査役は、取締役会及び経営会議等の重要な会議に出席し、業務執行と管理に関わる情報、内部統制の実効に関わる情報を適時に入手できる体制を構築する。
監査役会は、取締役・業務執行責任者等に業務執行の状況について、直接報告を求めることができる。
なお、取締役あるいは執行責任者は、当社もしくはグループ会社に著しい損害を及ぼす恐れや事実の発生、信用を著しく失墜させる事態、法令違反などの不正行為や重大な不当行為等が判明した場合は、書面もしくは口頭にて速やかに監査役に報告する。
監査役への報告を行った当社及びグループ会社の役員及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを保証する。
監査役がその職務の執行について、当社に対し費用の前払い等の請求をしたときは、必要でないと認められる場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
9. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
監査役は、監査の実施及び助言・勧告を行うにあたって、会計監査人や内部統制部との連携を図るとともに、代表取締役と定期的に会合を持ち意見を交換することにより、監査の実効性を高める。
また、監査役は、グループ全体の監査の実効性を確保することを目的として「グループ会社監査連絡会」を定期的で開催し、各グループ会社のイシュー・リスクに関する意見交換を行う。

〔連結計算書類〕

連結株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	21,279	20,512	639,461	△28,882	652,371
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△31,134		△31,134
親会社株主に帰属する当期純利益			121,295		121,295
自 己 株 式 の 取 得				△50,012	△50,012
自 己 株 式 の 処 分		△420		1,602	1,182
連結子会社株式の取得による 持 分 の 増 減		786			786
そ の 他		420	△420		－
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)					
当 期 変 動 額 合 計	－	786	89,741	△48,409	42,117
当 期 末 残 高	21,279	21,298	729,202	△77,292	694,489

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額					新 株 予 約 権	非 支 配 株 主 持 分	純 資 産 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 へ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計			
当 期 首 残 高	28,927	747	△18,370	3,826	15,130	527	4,400	672,429
当 期 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当								△31,134
親会社株主に帰属する当期純利益								121,295
自 己 株 式 の 取 得								△50,012
自 己 株 式 の 処 分								1,182
連結子会社株式の取得による 持 分 の 増 減								786
そ の 他								－
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)	△14,905	3,540	△13,850	△1,288	△26,503	△88	△4,307	△30,900
当 期 変 動 額 合 計	△14,905	3,540	△13,850	△1,288	△26,503	△88	△4,307	11,217
当 期 末 残 高	14,022	4,287	△32,220	2,537	△11,372	438	92	683,647

連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 45社

主要な連結子会社の名称

シオノギファーマ(株)、シオノギヘルスケア(株)、
シオノギINC.、シオノギB.V.、台湾塩野義製薬(股)、
C&Oファーマシューティカル テクノロジー ホールディングス L t d.

(新規)新規設立による増加 1社

新規取得による増加 1社

(除外)合併による減少 3社

清算による減少 1社

当連結会計年度において、シオノギファーマ(株)は連結子会社であるシオノギファーマケミカル(株)及びシオノギ分析センター(株)を吸収合併しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社の数

持分法適用の非連結子会社及び関連会社はありません。

(2) 持分法を適用していない関連会社6社(高田製薬(株)他5社)の当期純損益等のうち持分に見合う額は、連結純損益等に重要な影響を及ぼしていません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち在外連結子会社は30社であります。在外連結子会社のうち19社の決算日は12月31日であり、連結計算書類の作成にあたっては、12月31日現在の計算書類を使用しております。また、1社の決算日は6月30日であるため、12月31日現在で仮決算を行った計算書類を使用しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っておりません。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

(時価のあるもの)

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

(時価のないもの)

移動平均法による原価法。また、金融商品取引法第2条第2項に基づくみなし有価証券については、投資事業組合の純資産の持分相当額を投資有価証券として計上しております。

② 運用目的の金銭信託

時価法

③ デリバティブ

時価法

④ たな卸資産

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2～60年

機械装置及び運搬具 2～17年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（主として5年）に基づいております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 返品調整引当金

返品による損失に備えるため、製商品の返品予測高に対する売買利益相当額を計上しております。一部の連結子会社においては、製商品の返品による損失に備えるため、返品予測高に対する売上高相当額を計上しております。

- (4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は各在外連結子会社の決算日の直物為替相場により、収益及び費用は各在外連結子会社の期中平均の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。
- (5) 重要なヘッジ会計の方法
- ① ヘッジ会計の方法
繰延ヘッジ処理を原則としておりますが、振当処理の要件を満たしている為替予約取引は振当処理により、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については特例処理によっております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象
・ヘッジ手段 …… 為替予約取引及び通貨オプション取引、金利スワップ取引
・ヘッジ対象 …… 外貨建金銭債権債務及び予定取引、借入金
- ③ ヘッジ方針
当社は外貨建金銭債権債務及び予定取引に係る為替変動リスクを回避する目的で為替予約取引及び通貨オプション取引を行っております。また、借入金に係る金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。
- ④ ヘッジ有効性評価の方法
ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動とを比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。ただし、振当処理による為替予約取引、特例処理による金利スワップ取引については有効性の評価を省略しております。
- (6) のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、20年以内の定額法により償却を行っております。
- (7) その他連結計算書類作成のための重要な事項
- ① 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税抜方式によっております。
- ② 退職給付に係る会計処理の方法
従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
- i)退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ii)数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
なお、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部における「その他の包括利益累計額」の「退職給付に係る調整累計額」に計上しております。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 有形固定資産の減価償却累計額 181,908百万円

(連結損益計算書に関する注記)

1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 固定資産売却益
主に当社の研修所及び賃貸用不動産の売却によるものであります。
3. 段階取得に係る差益
(株)UMNファーマの株式の段階取得によるものであります。
4. 支払補償金
賃貸用不動産の再開発に伴うテナント企業への移転補償金であります。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
発行済株式 普通株式	316,786,165	—	—	316,786,165
合計	316,786,165	—	—	316,786,165
自己株式 普通株式	5,498,751	7,794,581	291,250	13,002,082
合計	5,498,751	7,794,581	291,250	13,002,082

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加7,794,581株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加7,792,500株、単元未満株式の買取による増加2,081株であります。
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少291,250株は、転換社債型新株予約権付社債の転換による減少217,050株、新株予約権の行使による減少40,900株、譲渡制限付株式報酬としての処分による減少33,300株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年6月18日 定時株主総会	普通株式	15,564百万円	50円	2019年3月31日	2019年6月19日
2019年10月30日 取締役会	普通株式	15,570百万円	50円	2019年9月30日	2019年12月2日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの次のとおり、決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	16,100百万円	利益 剰余金	53円	2020年3月31日	2020年6月24日

3. 当連結会計年度の末日における新株予約権（権利行使期間が到来しているもの）の目的となる株式の数
新株予約権

	塩野義製薬株式会社 2011年度新株予約権	塩野義製薬株式会社 2012年度新株予約権	塩野義製薬株式会社 2013年度新株予約権	塩野義製薬株式会社 2014年度新株予約権
発行決議の日	2011年 6月24日	2012年 6月27日	2013年 6月26日	2014年 6月25日
新株予約権の目的 となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式	普通株式
新株予約権の目的 となる株式の数	30,800株	50,400株	27,100株	29,700株

	塩野義製薬株式会社 2015年度新株予約権	塩野義製薬株式会社 2016年度新株予約権	塩野義製薬株式会社 2017年度新株予約権
発行決議の日	2015年 6月24日	2016年 6月23日	2017年 6月22日
新株予約権の目的 となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式
新株予約権の目的 となる株式の数	17,000株	14,600株	16,500株

(注) 権利行使期間は到来しておりますが、新株予約権者との間で締結しております新株予約権割当契約において、以下のとおり定めております。

- ① 新株予約権の行使期間内において、新株予約権者である取締役は、当社取締役の地位を喪失した日の翌日から10日（10日目が休日に当たる場合には翌営業日）を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものといたします。
- ② 新株予約権の行使期間内において、新株予約権者である執行役員は、当社執行役員を退任した日又は当社との雇用契約（定年後の再雇用に係る雇用契約を除く。）が終了した日のいずれか遅い日の翌日から起算して10日（10日目が休日に当たる場合には翌営業日）を経過する日までに限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものといたします。なお、新株予約権者の執行役員が新たに当社取締役に選任された場合は、取締役の退任時まで行使できないものといたします。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、必要な資金は銀行等金融機関からの借入や社債発行により調達しております。

受取手形及び売掛金にかかわる顧客の信用リスクは、社内で定められた手順に従い、経理財務部及び関連部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングすることでリスク低減を図っております。また、有価証券及び投資有価証券のうち、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金や社債の用途は事業計画に基づく資金調達であります。デリバティブ取引につきましては、社内で定められた手順に従い、通常取引範囲内で行うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額(*1)	時 価(*1)	差 額
(1) 現金及び預金	228,908	228,908	—
(2) 受取手形及び売掛金	46,191	46,191	—
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	174,955	174,955	—
(4) 支払手形及び買掛金	(10,763)	(10,763)	—
(5) 未払法人税等	(22,510)	(22,510)	—
(6) デリバティブ取引(*2) ヘッジ会計が適用されているもの	6,178	6,178	—

(*1)負債に計上されているものについては()で示しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

- (1) 現金及び預金
預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 受取手形及び売掛金
これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 有価証券及び投資有価証券
有価証券のうち、国内譲渡性預金及び金銭信託はすべて短期であるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。国内譲渡性預金及び金銭信託を除いた有価証券及び投資有価証券の時価について、債券は主に取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっており、株式は取引所の価格によっております。
- (4) 支払手形及び買掛金
これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (5) 未払法人税等
これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (6) デリバティブ取引
取引金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	68,707

これらについては、市場価格が無く、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(1) 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 2,248円69銭
2. 1株当たり当期純利益 392円80銭
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 392円38銭

(重要な後発事象に関する注記)

(自己株式の消却)

当社は、2019年9月30日及び2020年3月30日開催の取締役会決議に基づき、2020年4月6日付で、会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却を行っております。

1. 自己株式の消却を行った理由

発行済株式総数の減少を通じて株主利益の増大を図るため

2. 消却した株式の種類

当社普通株式

3. 消却した株式の総数

5,200,000株

4. 消却実施日

2020年4月6日

(企業結合に関する注記)

(取得による企業結合)

1. 企業結合の概要

当社は2019年10月30日開催の取締役会決議に基づき、当社の関連会社である株式会社UMNファーマ(以下、「UMN社」という。)の普通株式及び新株予約権を2019年10月31日から2019年12月12日にかけて、金融商品取引法に基づく公開買付けにより取得いたしました。

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 株式会社UMNファーマ

事業の内容 バイオ医薬品の研究・開発・製造・販売

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、市場環境の変化に対応しグローバルでの新薬開発競争を勝ち抜き、中長期的な成長を実現するためには、当社の注力領域である感染症領域の更なる発展が不可欠と考えております。当社とUMN社は、2017年10月31日に資本業務提携契約(以下「本資本業務提携」という。)を締結し、UMN社の遺伝子組換え技術を活用した次世代ワクチンに関する各種知見・ノウハウ・技術を用いて共同でヒト用感染症予防ワクチンをはじめとするバイオ医薬品の研究・開発・申請・販売を実現することで、両社の企業価値向上を目指してまいりました。本資本業務提携に係る基盤技術整備及び開発候補品の基礎的研究が順調に進展していたことから、2019年7月より当社及びUMN社はヒト用感染症予防ワクチンに係る開発候補品から開発品を選定し非臨床試験以降の本格開発・事業化を行うことを目的とした協議を進めてまいりました。その中で当社は、本事業における迅速な意思決定及び積極的かつ柔軟な経営資源の投入のためには、開発候補品ごとの業務提携ではなく、両社の研究開発体制及び製造・販売体制を統合し、事業の活性化及び効率化を図ることが必要であるとの判断に至りました。

(3) 企業結合日

2019年12月19日

(4) 企業結合の法的形式

当社による現金を対価とする株式取得

(5) 結合後の企業の名称

名称の変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 31.08%

企業結合日に追加取得した議決権比率 52.43%

取得後の議決権比率 83.51%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、UMN社の株式を取得したことによるものです。

2. 当連結会計年度に係る連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

被取得企業の決算日は12月31日ですが、連結決算日との差異が3ヶ月を超えていないため、連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用しております。本企業結合のみなし取得日は2019年9月30日としていることから、連結損益計算書には被取得企業の2019年10月1日から12月31日までの業績が含まれております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に所有していた持分の企業結合日における時価	2,970百万円
追加取得に伴い支出した現金	5,010百万円
取得原価	7,980百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー手数料等 243百万円

5. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 1,331百万円

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

7,518百万円

なお、のれんは、当連結会計年度末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

主として今後の事業展開により期待される将来の超過収益力により発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

20年間にわたる均等償却

7. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

流動資産	563百万円
固定資産	97百万円
資産合計	660百万円
流動負債	62百万円
固定負債	27百万円
負債合計	90百万円

8. 取得原価の配分

当連結会計年度末において企業結合日における識別可能資産及び負債の時価の算定が未了であり、取得原価の配分が完了していないため、その時点で入手可能な合理的情報に基づき暫定的な会計処理を行っております。

(共通支配下の取引等)

1. 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：医薬品生産事業

事業の内容：医療用医薬品等の製造及び製造受託等

(2) 企業結合日

2019年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社とし、当社100%子会社であるシオノギファーマ株式会社を承継会社とする簡易吸収分割

(4) 結合後企業の名称

シオノギファーマ株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループの生産関連機能を担い、生産技術の革新的な発展を進めることで、高い品質と価格競争力を両立した製品を国内外の市場に向けて安定供給することを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

3. その他の重要な事項

承継会社であるシオノギファーマ株式会社は、同日付で当社100%子会社であるシオノギファーマケミカル株式会社及びシオノギ分析センター株式会社を吸収合併しております。

(追加情報)

(自己株式の処分)

当社は2020年3月30日開催の取締役会において、中国平安保険（集団）股份有限公司（以下、「中国平安保険」という。）との資本業務提携に関する基本合意を行うこと、及び中国平安保険の子会社である中国平安人寿保险股份有限公司（以下、「平安人寿」という。）を割当予定先とする第三者割当による自己株式の処分を決議いたしました。

1. 処分の概要

- (1) 処分期間 : 2020年7月1日から同年7月31日まで（予定）
- (2) 処分株式数 : 普通株式 6,356,000株
- (3) 処分価額 : 1株当たり 5,276円
- (4) 調達資金の額 : 33,534,256,000円
- (5) 割当予定先 : 平安人寿
- (6) その他 : 前記各号については、金融商品取引法に基づく有価証券届出書の効力発生を条件とします。

(注) 当社及び中国平安保険又はその子会社との間で合弁会社の設立に係る合弁契約書が締結されていること、及び割当予定先が本第三者割当を引き受けるにあたって必要となる各種許認可を取得していること等をその実行前提条件としております。

2. 処分の目的及び理由

平安人寿の親会社である中国平安保険との資本業務提携の一環として実施するものであり、当社基本方針のグローバルでの実現に向けた、中国平安保険との長期的かつ強固な戦略的パートナーシップを構築するためであります。

(計算書類)

株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本								評価・換算差額等			新株 予約権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自 株 己 式	株主資本 合計	その 他 有 価 証券 評価 差 額 金	繰 延 ハ ッ ジ 損 益			評 価 ・ 換 算 差 額 合 計
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	その他利益剰余金									
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金												
当 期 首 残 高	21,279	16,392	-	5,388	3,820	368,645	116,414	△28,882	503,058	28,928	747	29,675	527	533,261
当 期 変 動 額														
固定資産圧縮積立 金の取崩					△91		91		-					-
剰余金の配当							△31,134		△31,134					△31,134
当期純利益							88,640		88,640					88,640
自己株式の取得								△50,012	△50,012					△50,012
自己株式の処分			△420					1,602	1,182					1,182
会社分割による 減					△715		715		-					-
そ の 他			420				△420		-					-
株主資本 以外の項目 の当期変動額 (純額)										△14,905	3,540	△11,365	△88	△11,454
当期変動額合計	-	-	-	-	△807	-	57,893	△48,409	8,675	△14,905	3,540	△11,365	△88	△2,778
当 期 末 残 高	21,279	16,392	-	5,388	3,012	368,645	174,307	△77,292	511,733	14,022	4,287	18,310	438	530,482

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

(時価のあるもの)

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

(時価のないもの)

移動平均法による原価法。なお、金融商品取引法第2条第2項に基づくみなし有価証券については、投資事業組合の純資産の持分相当額を投資有価証券として計上しております。

(2) 運用目的の金銭信託

時価法

(3) デリバティブ

時価法

(4) たな卸資産

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

機械及び装置 4～17年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(主として5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

- (3) 役員賞与引当金
役員の賞与支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (4) 返品調整引当金
返品による損失に備えるため、製商品の返品予測高に対する売買利益相当額を計上しております。
- (5) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
- ①退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ②数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
- 数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。
- なお、退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を原則としておりますが、振当処理の要件を満たしている為替予約取引は振当処理により、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段 …… 為替予約取引及び通貨オプション取引、金利スワップ取引
- ・ヘッジ対象 …… 外貨建金銭債権債務及び予定取引、借入金

(3) ヘッジ方針

当社は外貨建金銭債権債務及び予定取引に係る為替変動リスクを回避する目的で為替予約取引及び通貨オプション取引を行っております。また、借入金に係る金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動とを比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。ただし、振当処理による為替予約取引、特例処理による金利スワップ取引については有効性の評価を省略しております。

6. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表に関する注記)

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。 | |
| 2. 有形固定資産の減価償却累計額 | 76,253百万円 |
| 3. 関係会社に対する金銭債権 | 3,381百万円 |
| 関係会社に対する金銭債務 | 10,958百万円 |

(損益計算書に関する注記)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。 | |
| 2. 関係会社との取引高 | |
| 営業取引高 | 87,959百万円 |
| 営業取引以外の取引高 | 6,587百万円 |
| 3. 固定資産売却益 | |
| 主に研修所及び賃貸用不動産の売却によるものであります。 | |
| 4. 関係会社株式評価損 | |
| 子会社であるShionogi Ireland Ltd.及びShionogi Singapore Pte. Ltd.に係るものであります。 | |
| 5. 支払補償金 | |
| 賃貸用不動産の再開発に伴うテナント企業への移転補償金であります。 | |

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度の末日における自己株式の数

普通株式

13,002,082株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

関係会社株式評価損	25,774百万円
関係会社株式簿価修正	12,503百万円
研究開発費	7,433百万円
投資有価証券評価損	2,538百万円
賞与引当金	1,745百万円
未払事業税	400百万円
その他	3,105百万円
<hr/>	<hr/>
繰延税金資産 小計	53,499百万円
評価性引当額	△40,269百万円
<hr/>	<hr/>
繰延税金資産 合計	13,229百万円

繰延税金負債

前払年金費用	△3,479百万円
その他有価証券評価差額金	△3,396百万円
固定資産圧縮積立金	△1,328百万円
投資有価証券交換益	△965百万円
その他	△2,090百万円
<hr/>	<hr/>
繰延税金負債 合計	△11,260百万円
<hr/>	<hr/>
繰延税金資産の純額	1,969百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	シオノギファーマ(株)	所有 直接100%	当社製品の製造委託 試験・分析委託	会社分割(注1) 分割資産 分割負債	50,960 43	—	—
				仕入(注2)	60,928	買掛金	5,115

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 2019年4月1日付で、当社の医薬品生産事業を子会社であるシオノギファーマ(株)に吸収分割により承継しました。

(注2) 価格その他の取引条件は、交渉の上、適正な価格で決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額	1,744円81銭
2. 1株当たり当期純利益	287円05銭
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益	286円74銭

(重要な後発事象に関する注記)

連結計算書類 連結注記表(重要な後発事象に関する注記)をご参照ください。

(企業結合に関する注記)

連結計算書類 連結注記表(企業結合に関する注記)をご参照ください。

(追加情報)

連結計算書類 連結注記表(追加情報)をご参照ください。